

日本看護協会は、国民への質の高い医療の提供を目的に資格認定制度を創設し、22年目となります。特定の専門看護分野の知識・技術を深め、保健医療福祉の発展に貢献し併せて看護学の向上をはかることを目的として13分野・1,862名の専門看護師と、看護現場における看護ケアの広がりや質の向上をはかることを目的に21分野・18,728名の認定看護師を社会に送り出しています(平成29年7月現在)。宮崎県内では、専門看護師10名(4分野)と認定看護師135名(17分野)が活動しています。県民の皆様へ、県内で活動する専門看護師・認定看護師の活動内容を広く知ってもらい、県民の皆様のお役に立てるような内容を情報発信する活動も2年目となりました。今後も継続して、この活動に取り組んでまいります。

ダニから感染する病気をご存知ですか？

感染管理認定看護師 荒武 舞 (宮崎大学医学部附属病院)

最近、テレビのニュースや新聞で「重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)」ということばを耳にしませんか？ この感染症は、SFTSウィルスをもったマダニ(下記写真)に咬まれることで感染するダニ媒介感染症です。

宮崎は日本で一番SFTSが多い！

日本で初めてSFTSが発生したのは2012年秋のことです。その後、西日本を中心に発生しており、現在宮崎県が国内最多の報告数です。これまで5～90歳代の幅広い年齢層で発症していますが、60歳以上の方が特に罹りやすく、特に高齢者は重症化しやすいと言われています。



写真：フタトゲチマダニ



SFTSって何？

6日～2週間の潜伏期を経て、発症します。症状は、発熱、食欲低下や嘔気・嘔吐、下痢や腹痛などの消化器症状が多くみられます。重症化すると皮下出血や下血などの出血症状も起こります。確立された治療法はなく、対症療法が主となります。

家の中のダニとは別物！

マダニは、食品や衣類・寝具等に発生するいわゆる家庭内に生息するダニとは種類が異なります。世界には800種類以上のマダニがあり、そのうち日本には47種類が生息していますが、日本にいるマダニのうちSFTSウィルスを持っている確率は0～数%と言われています。確率は低いですが、草むらや藪に入るときには、肌の露出を最小限にする等の注意が必要です。



感染者の血液には注意！

マダニから咬まれるだけではなく、ヒトや動物の血液等の体液との接触でもヒトへ感染すると言われています。ただ、SFTSウィルスは酸や熱に弱く、消毒用アルコールなどの一般的な消毒剤でも感染力を弱めることができます。

感染症と聞くとただ「怖い…」と思ってしまいがちですが、

正しい知識を持ち、予防行動をとることが大切です！

最も重要な予防対策、それは「マダニに咬まれないこと！」です。